

世界トップクラスの観光地の形成について

国土交通省北海道局

令和4年11月15日

計画の目標	主要施策	施策の検討項目	計画 部会	資料
目標Ⅰ 我が国の豊かな暮らしを支える北海道 ～食料安全保障、脱炭素化、観光立国等を先導	1. 食料安全保障を支える 農林水産業・食関連産業の持続的な発展	(1) 我が国を先導する農林水産業の生産力強化 (2) 国内外のマーケットに対応したバリューチェーンの構築 (3) 持続可能な農林水産業の展開 (4) 農林水産業の持続性を支える農山漁村の振興	第6回	資料3
	2. 地球温暖化対策を先導する 活力ある脱炭素社会の実現	(1) 北海道の地域特性を活かした持続可能な脱炭素社会の形成 (2) エネルギー基地の形成 (3) 北海道のCO2吸収力の発揮	第6回	資料4
	3. 世界トップクラスの観光地の形成	(1) 世界市場に向けた新たな観光コンテンツの創出と観光の生産性向上 (2) 多様な旅行者の受入環境の整備と地方部への年間を通じた誘客の実現 (3) 持続可能な観光地域づくりによる自然環境・文化の保全と観光の両立	第6回	資料5
	4. 地域の強みを活かした産業の育成	(1) 再生可能エネルギーを活かした産業振興 (2) 地理的・気候的な優位性を活かした産業振興	第6回	資料6
	5. 豊かな自然と共生する持続可能な社会の形成	(1) 北海道の特性を活かした自然共生社会の形成 (2) 資源を最大限に利活用する循環型社会の形成	第6回	資料7
	6. 北方領土隣接地域等の振興	(1) 北方領土隣接地域の安定振興 (2) 国境周辺地域・離島地域の振興	第6回	資料8
	7. アイヌ文化の振興等	(1) アイヌ文化の振興等の推進	第6回	資料9
目標Ⅱ 北海道の価値を生み出す北海道型地域構造 ～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり	1. デジタルの活用による生産空間の維持・発展	(1) 必要なサービスをデジタル技術で享受できる社会の形成 (2) 広大な北海道に適したデジタル情報基盤の整備	第5回	資料5
	2. 多様で豊かな地域社会の形成	(1) 人への投資と多様な人材・主体による協働・共創の展開 (2) 多様な暮らし方・働き方の実現 (3) 生産空間の暮らしを支える中心市街地の形成と賑わいの場の創出	第5回	資料6
	3. 北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成	(1) 広域分散型社会を支える交通ネットワークの形成 (2) 産業を支える物流基盤の整備と物流システムの維持・効率化 (3) 安全・安心な移動環境の確保 (4) 札幌における交通結節機能と都市機能の強化	第5回	資料7
	4. 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり	(1) 気候変動に伴い激甚化する水災害に対する北海道の地域特性を踏まえた流域治水の本格的実践 (2) 日本海溝・千島海溝型地震等の大規模災害に対する生産・社会基盤の強靱化 (3) 冬期災害や複合的災害に対する防災力の強化 (4) デジタルを活用したインフラの維持管理及び技術開発の推進 (5) 災害時におけるライフライン機能確保のための施設の耐災害性強化、多重化・分散化 (6) 国家的規模の災害時におけるリスク分散	第5回	資料8

- (1) 世界市場に向けた新たな観光コンテンツの創出と
観光の生産性向上 …… 3**
- (2) 多様な旅行者の受入環境の整備と
地方部への年間を通じた誘客の実現 …… 11**
- (3) 持続可能な観光地域づくりによる
自然環境・文化の保全と観光の両立 …… 18**

- 新型コロナウイルス感染症の影響で浸透したテレワークによる場所にとらわれない柔軟な働き方などの新たなライフスタイル・観光ニーズに対応した取組を推進する必要がある。北海道におけるワーケーションの課題は、交通アクセス、空港アクセスや冬期の移動のしやすさの充実などであるため、安全・安心な交通アクセスを確保する必要がある。
- 世界市場に向けた北海道ブランドの確立に向け、季節変動などの課題解消に向けた北海道らしい観光コンテンツの創出に加え、観光の生産性を高める取組を推進する必要がある。

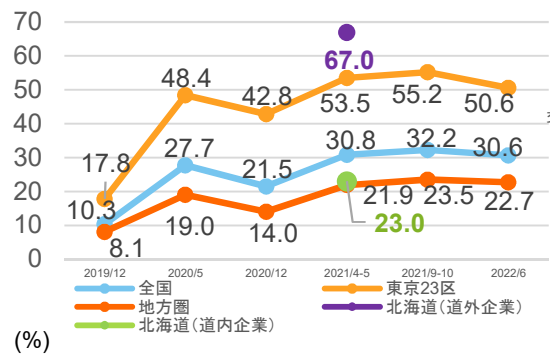
現状と課題

○新型コロナウイルス感染症によるライフスタイルの変化

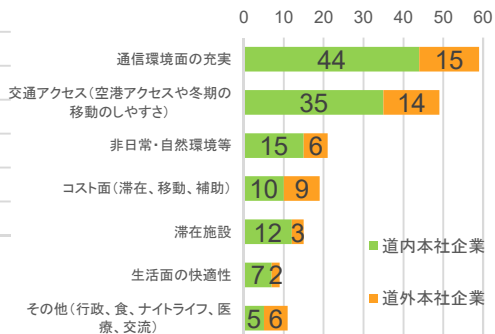
新型コロナウイルス感染症の影響によりテレワークによる場所にとらわれない柔軟な働き方が浸透し、ワーケーションや多拠点居住などの新たなライフスタイルの定着を踏まえ、密になりにくい自然環境など、北海道の優位性を活かした長期滞在、関係人口創出に対応した受入環境整備が必要。

令和2年12月の観光戦略実行推進会議において、ワーケーション等の普及、国民向けのキャンペーンも実施が示された。その結果、テレワークの実施率は東京23区を中心に半数以上の企業で実施されている一方で、北海道内企業では2021年5月の時点で23%と全国の地方圏同様レベルの実施率となっている。北海道でのワーケーションに求められる条件としては、交通アクセス、空港アクセスや冬期の移動のしやすさの充実などが上位に来ており、北海道ならではの条件に対する受入環境の整備が求められている。

■地域別のテレワーク実施率



■ワーケーションの候補地に北海道が選ばれるために必要と考えられる条件



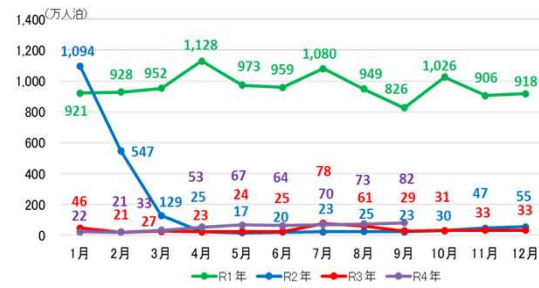
※道内本社企業 74社、道外本社企業 30社、合計 104社 複数回答
 出典：内閣府「第5回 新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」「ワーケーションに関する調査報告書(北海道経済連合会)」より北海道局作成
 出典：「ワーケーションに関する調査報告書(北海道経済連合会)」より北海道局作成

○北海道観光の季節変動

北海道の観光資源が自然環境や景観に依存していること等から、客室稼働率は全国と比べ季節変動が大きい。

北海道観光ブランドイメージの定着に貢献するため、身近な空間の使い方について知恵を集める取組や、アドベンチャートラベル等の新たな観光コンテンツの創出が必要。北海道を訪れるアジアからのインバウンド観光の約半数が「スノーアクティビティ」を目的としており、北海道の冬の自然環境でのアドベンチャートラベルなどの体験型旅行のニーズが高い。

■外国人延べ宿泊者数の推移(全国)



■外国人延べ宿泊者数の推移(北海道)



出典：観光庁宿泊旅行統計調査

■2023年アドベンチャートラベル・ワールドサミット(ATWS)開催地に北海道が内定



出典：ATWS2021北海道開催サイト

■北海道を訪れる目的

	東アジア			東南アジア		
	低収入者	中収入者	高収入者	低収入者	中収入者	高収入者
サンプル数	292	350	343	227	324	324
自然や景観の見物	64	63	65	65	67	65
雪景色鑑賞	68	67	67	65	60	63
スノーアクティビティ	48	50	50	54	49	49
自然や資源を損なうことのないよう配慮されている観光地・観光ツアー	39	38	41	52	49	51

約半数が「スノーアクティビティ」を目的

注1) 単位：％
 注2) 40%以上を塗りつぶしている
 注3) 回答はあてはまるものすべて
 注4) 全体の各収入全てが40%以上の項目のみ抽出
 出典：日本政策投資銀行「DBJ・JTBF アジア・欧米 北海道観光に関する訪日外国人旅行者の意向調査(第2回新型コロナ影響度特別調査)」

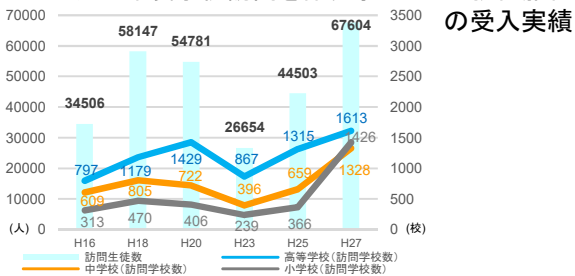
- 世界市場に向けた北海道観光のデスティネーション・イメージ(旅先としての地域のイメージ)や北海道ブランドの確立に向け、長期滞在型旅行など新たな観光スタイルに対応した受入環境の整備を推進するとともに、国内外から若者等が集まる北海道らしい観光コンテンツの創出に向けた取組を推進する。
- 観光の生産性向上に向け、高付加価値な観光などの取組を推進するとともに、北海道の優位性を活かしたMICEの誘致の取組を推進する。

現状と課題

○新たな観光需要

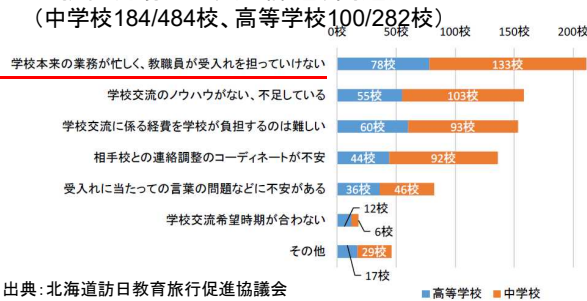
海外からの教育旅行の訪問先として日本を訪れる機会が増加傾向にあるが、受入体制に課題。生産空間における学習観光の場の提供が必要。

■平成27年度学校訪問を伴う海外からの教育旅行の受入実績



出典:「高等学校等における国際交流等の状況について」文部科学省

■教育現場への受入課題、問題点(中学校184/484校、高等学校100/282校)



出典:北海道訪日教育旅行促進協議会

○北海道観光の観光消費額単価

都道府県別の訪日外国人の観光消費額単価については、北海道は東京都より高いが、2030年政府目標を実現するためには、量だけではなく高付加価値旅行者向けの観光資源造成等により、観光消費額単価の更なる向上や観光業の生産性向上を目指す必要。

■「明日の日本を支える観光ビジョン」新たな目標値 ■訪日外国人の観光消費額単価(観光目的・宿泊)



※2030年の政府目標訪日外国人旅行消費額から算出する旅行消費額単価は25万円。
目標を達成するためには約8割の増額が必要。
※訪日外国人旅行消費額÷訪日外国人旅行者数で単純計算

※集計中等で数値が判明しない年はグラフに掲載していない ※H22のみ年度集計 出典:観光庁「共通基準による観光入込客統計」から北海道局作成

施策の検討項目

- 新たな観光スタイルの確立
- 北海道らしい新たな観光コンテンツの創出
 - 生産空間における魅力的な公共空間を活用した観光コンテンツの創出
 - アドベンチャートラベル等の推進
 - 季節変動解消に向けた食・文化等の観光コンテンツの創出
- 高付加価値な観光の推進による観光消費額・観光消費額単価の向上
- MICEの誘致の推進

(1) 世界市場に向けた新たな観光コンテンツの創出と観光の生産性向上④

- ② 北海道らしい新たな観光コンテンツの創出 ②-1 生産空間における魅力的な公共空間を活用した観光コンテンツの創出
- 北海道の雄大な自然環境を活かした北海道ブランドづくりに向け、生産空間にある身近で魅力的な公共空間を新たな観光コンテンツとして創出する取組を推進する。
 - 「かわたびほっかいどう」の取組により河川空間の魅力を発信するとともに、河川空間が新たな観光資源となり得るよう取組を促進する。
 - 魅力ある道路景観を地域の重要な観光資源の一つとして確立するため、特に魅力的な空間について景観の維持・形成、情報発信を重点的に推進するシーニックバイウェイ北海道「秀逸な道」の取組により、地域との協働を通じて生産空間の新たな観光コンテンツの創出を推進する。

身近で魅力的な公共空間を新たな観光資源として創出

■河川空間の活用【かわたびほっかいどう】

- 「アウトドアメッカ十勝2019」を帯広青年会議所及びデスティネーション十勝(DMO)と連携し開催。十勝川の水辺で食とアクティビティを楽しむ。

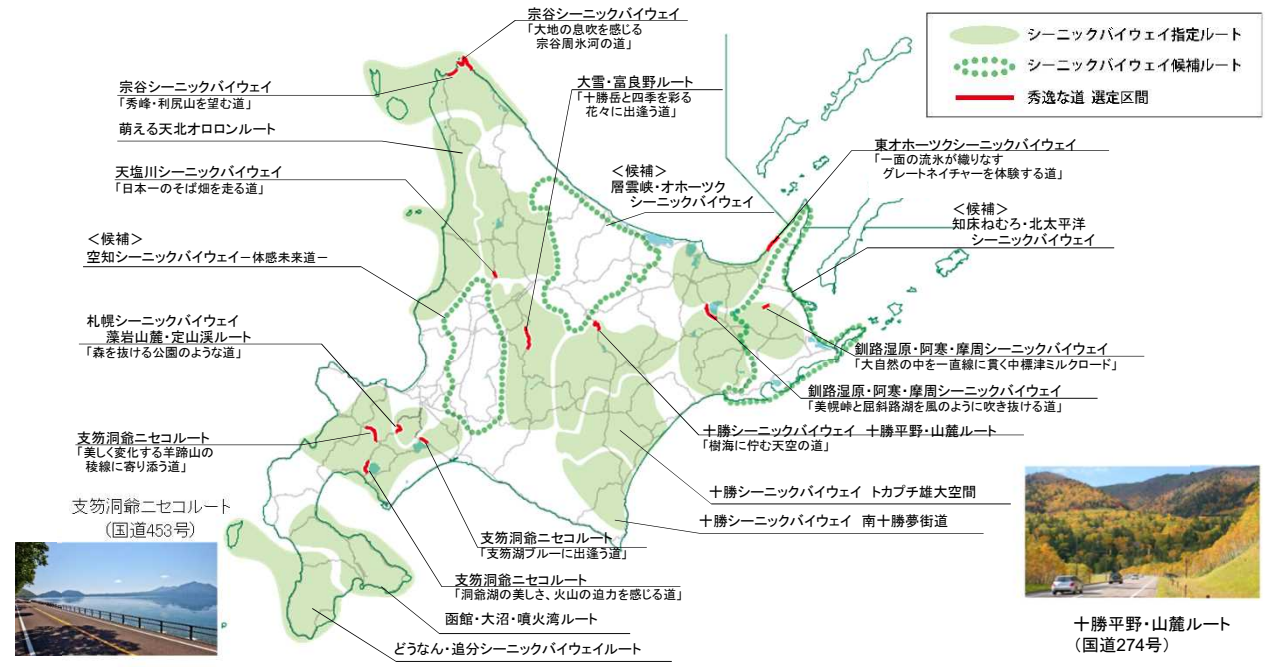


- 石狩川の広大な河川敷を観光のみならず、癒しの空間、子供のにぎわいの場など、多面的な効用を期待。



■道路空間の活用【シーニックバイウェイ北海道】「秀逸な道」選定区間

- 「秀逸な道」12区間について、景観の維持・形成、情報発信等の取組の推進や拡充を図り、多様な関係主体の連携の下、地域の観光資源として活用することにより、北海道のドライブ観光をより一層推進。



(1) 世界市場に向けた新たな観光コンテンツの創出と観光の生産性向上⑤

② 北海道らしい新たな観光コンテンツの創出 ②-2 アドベンチャータラベル等の推進

- ・ Z世代等の若者をターゲットとしたアドベンチャータラベルにおける北海道ブランドづくりに向け、自然環境を活かしたフットパスやカヌー、世界屈指の一大ウィンターリゾートエリアでのスキーやスノーボード、自然環境を活かした冬のコンテンツとしてのファットバイクやカーリングなど、地域との協働によるスポーツツーリズムの取組を推進する。
- ・ 世界水準のサイクルツーリズム環境の実現に向け、安全で快適な自転車走行環境やサイクリストの受入環境の改善の取組を推進する。

地域と協働で取り組むスポーツツーリズムの推進

- ・ 「秀逸な道」の区間である白い道(稚内)や礼文町においては、宗谷シーニックバイウェイの活動団体と連携してフットパスを推進。



白い道でのフットパス

- ・ 雪質日本一を誇る名寄のピヤシリ山へスノーモービルで行き、極寒環境を楽しむツアーや、冬の地域の新しい楽しみ方としたMTBツアーを天塩川シーニックバイウェイの活動団体と連携して推進。



スノーモービルと冬のファットバイク

- ・ カーリング場などのスポーツ関連施設の構築など、自治体と連携した取組を促進。



※社会資本整備総合交付金で構築した施設(稚内市みどりスポーツセンター)

- ・ カヌーツーリング大会『ダウン・ザ・テッシーオーペツ』などのイベントを、「かわたびほっかいどう」や萌える天北オロロンルートの活動団体などと協力して推進。



- ・ 道北の風が強い環境を活かし、幌延町のサロベツ湿原において、スノーカイトエンデュランス(長距離走行)大会「フリカムイ・ホロノベ」をシーニックバイウェイ萌える天北オロロンルートの活動団体と連携して取組を推進。



スノーカイト



カーリング

サイクルツーリズムの推進

- ・ 「世界水準のサイクリング環境」構築のため、全道各地のルート協議会で策定されたアクションプランにより、民間と行政が一体となってサイクルルートの受入環境・サイクルルートまでのアクセス・自転車走行環境の改善、利用者のレベルに合わせたルート等の情報発信を推進。



- アクションプランに基づき、走行環境、受入環境、情報発信等の取組を実施



ルート案内看板の設置



地域資源(ミズナラ材)を活かしたサイクルラック



矢羽根路面標示



メンテナンスエリア
除雪ステーションを活用したサイクル拠点

- 地域資源を活かした取組(きた北海道ルートでの事例)



シーニックバイウェイ活動団体とJR等が連携



道、川と鉄道が並行する地域性を活かし、移動そのものが観光となる取組

② 北海道らしい新たな観光コンテンツの創出 ②-3 季節変動解消に向けた食・文化等の観光コンテンツの創出
 ・農泊(渚泊)、ファームレストラン、ワイナリー、酒蔵、醸造所見学、スイーツ巡りを始め農耕閑散期の畑カフェ、教育旅行の誘致促進や文化・歴史インフラツーリズムなど、気象条件の影響を受けにくい通年型の観光コンテンツの創出を推進する。

ワイナリー、酒蔵、醸造所とダムとの連携による観光コンテンツの創出

・ 地元の民間企業と連携し、ワイン、日本茶葉、日本酒等をダムで熟成する実証実験を各地で実施。豊平峡ダムでは、ソムリエによる官能試験を実施。



・ 札内川ダムでは、コーヒー豆の貯蔵・熟成実験を実施、「かわたび」コーヒーと銘打ち、ダムで熟成されたコーヒーの試飲イベント等を実施。

年間を通したインフラツーリズムの推進

・ ダムでの観光放流、SUP体験イベント、民間旅行会社と連携したツアー等を実施。



・ 夕張スーパーロダムでは、地域の観光協会、商工会議所等と連携し、凍結した湖面に円形の切り込みを入れて回転させる北欧発祥の遊び「アイスカラーセル」を楽しむイベントを実施。

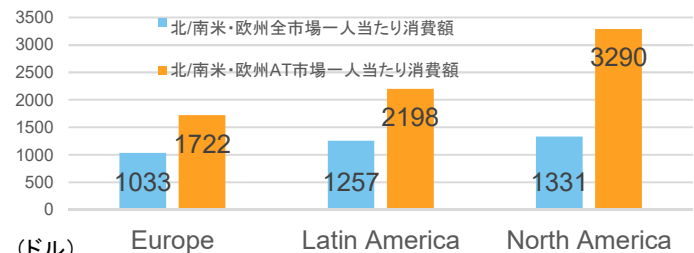


③ 高付加価値な観光の推進による観光消費額・観光消費額単価の向上

- ・量だけではなく観光消費額単価の向上に向けた高付加価値旅行者向けの観光資源造成等の促進を図り、観光業の生産性向上を推進する。
- ・1次産業の場を観光資源として見いだす取組や、観光消費額単価が高いアドベンチャートラベルのメニューでもあるサイクルツーリズムによる誘客、滞在期間の長い外国人ドライブ観光客の誘客、クルーズ船の受入体制の充実による誘客等を推進する。

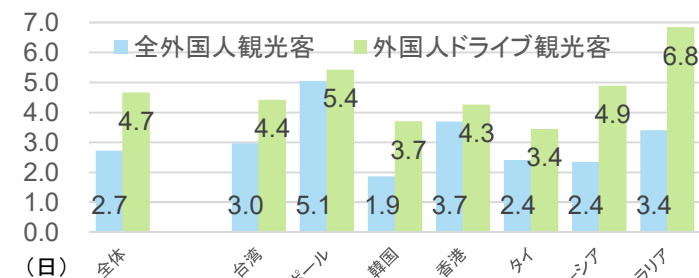
観光消費額単価を上げる取組

・アドベンチャートラベルの観光消費額単価は通常旅行者に比べ1.7倍～2.5倍程度と高いため、サイクルツーリズムを始めとした受入体制の取組を推進。



(ドル) 出典：日本初、アドベンチャートーリズムマーケティング戦略策定！～道東エリアをモデルとした地域AT戦略～(北海道経産局)より北海道局作成

・外国人ドライブ観光客は、来道外国人旅行者全体に比べ、長い期間滞在し消費も期待されることから、ドライブ観光を推進。

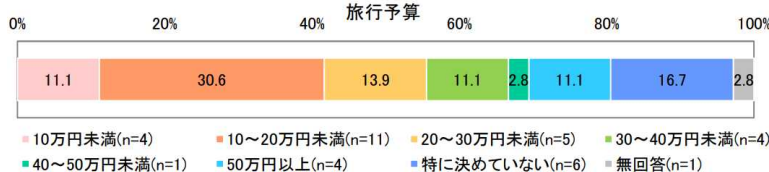


ドライブ観光客：ナビタイムジャパン提供アプリ「Drive Hokkaido」2019年GPSデータ、全外国人観光客：北海道経済部観光局「北海道観光入込客数調査報告書(2018年度)」統計データ

サイクリストの受入環境整備の推進

- ・アドベンチャートラベルのコンテンツの一つであるサイクルツーリズムを目的とした訪日外国人旅行者の観光消費予算は、一般のレジャー・観光を目的とした訪日外国人旅行者に比較して観光消費額単価より高いため、サイクリストの受入体制の取組を推進。

サイクリストの1回当たりの観光消費額単価



日本滞在中の観光消費学単価 28万円 > 約2倍 > 観光消費額単価 13.4万円(H28)

出典：平成29年度サイクリング・ツーリズムを中心とした新たな観光関連産業創出に向けた調査事業報告書平成30年2月中国経済産業局から北海道局作成
出典：共通基準による観光入込客統計H28 観光庁から北海道局作成

- ・来訪者の増加、観光消費の促進、地域振興を目的として、自転車をもそのまま客室内に持ち込めるバイクホテルの試行、手ぶらでサイクルを楽しめる旅行商品化の検討を実施。
- ・国内外のサイクリストを誘致し、交流人口の拡大、周遊観光の拡大を図り、地域経済を活性化することを目的として、交通過疎地においても道路を活用した観光、健康、エコロジーに着目した広域のサイクルツーリズムを推進。

オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクトの事例



どうなんサイクルツーリズム推進事業の事例



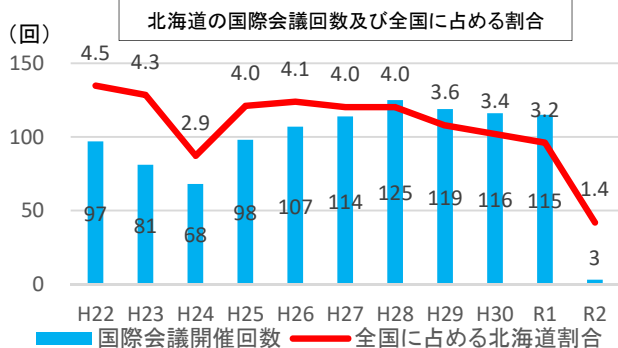
④ MICEの誘致の推進

- 北海道内の地方公共団体への関連情報の提供やMICE開催者とのマッチングなどの支援を強化するとともに、北海道は安全・安心の食、豊富な観光資源、豊かな自然環境、エネルギー資源や独自の歴史・文化などを有しており、他の地域にはない優位性を活かしたMICEの誘致を推進する。
- 新型コロナウイルス感染症の世界的流行を踏まえ、感染症対策やハイブリッド型MICEなどの開催を支援するとともに、野外ユニークベニューの活用など、北海道独自の資源を活かした安全・安心なMICEの誘致を推進する。

北海道の優位性を活かしたMICEの誘致

新型コロナウイルス感染症の影響により国際会議の件数は減少。北海道での開催は全国の約4%前後にとどまり、そのほとんどが札幌市での開催。

夏期の冷涼な気候、豊富なコンベンション施設など、北海道の優位性を活かし、国際会議件数全国5位でグローバルMICE都市としても上位にある札幌市はもちろん、これまでMICE開催実績の少ない都市も含め、MICE開催に向けた取組を推進。



(出典：日本政府観光局「国際会議統計」から北海道局作成)

■ G20観光大臣会合

- 令和元年10月25日～26日に倶知安町で開催。



出典：北海道庁「第13回及び第16回 国際会議等の北海道開催の推進に係る各省庁連絡会議資料」

■ 北海道の主なコンベンション施設



■ アドベンチャートラベルワールドサミット

- 令和3年9月20日～24日に初のバーチャルで開催。
- 令和5年9月11日～14日にはリアルで開催予定。

アドベンチャートラベルワールドサミット(ATWS) 2023の北海道開催

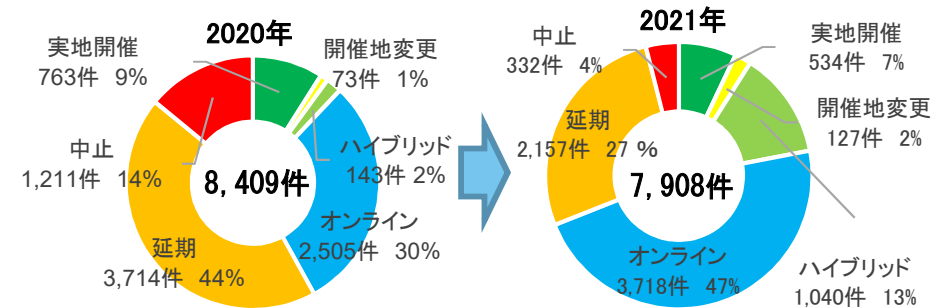
【開催案】
 ■期 程：2023年9月11日～14日(4日間)
 ■開催地：北海道
 ■主催者：アドベンチャートラベル・トレードアソシエーション
 ■参加者：50ヶ国以上から約800名
 ■内 容：アトラクション・アドベンチャー、基調講演、分科会、商談会、メディア交流会、ホストサミットアドベンチャー等

○北海道をアドベンチャートラベルの目的地として広くPRする絶好の機会
 OATWSで培った人脈や商品造成ノウハウなどを活かし、アドベンチャートラベルの顧客を道内随々に誘客

安全・安心なMICEの誘致

■ 世界の国際会議開催状況(2020年・2021年)

新型コロナウイルス感染症の影響により、ハイブリッド型MICEが増加。



出典：観光庁「第16回 国際会議等の北海道開催の推進に係る各省庁連絡会議資料」
 ICCA(国際会議協会)のデータから観光庁作成

■ ポストコロナにおける野外ユニークベニュー※の活用



■ JR旭川駅直結の美しい庭園

「あさひかわ北彩都ガーデン」
 ・旭川駅に直結したまちの中心にあるガーデンで、芝生スペースを活用した屋外イベントなど「まちなかのオアシス」ならではの好環境でMICEの開催が可能。

■ 旧国鉄の工場として建築されたレンガ造りの「旭川市市民活動交流センター-CoCoDe」

・様々な市民活動や各種講座・研修会の機会を提供する施設で、親子参加のイベントからシニアの方を対象とした催し、国際イベントなど多目的な利用が可能。

■ 博物館と音楽堂、国際会議場のある複合施設

「旭川市大雪クリスタルホール」
 ・前庭には開拓のために流した先人の汗と涙を雪の結晶にデザインしたモニュメント、中庭には緑の芝生が広がっており、野外での利用環境が整っている。

※歴史的建造物、文化施設や公的空間等で、会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会議
 出典：北海道庁「第16回 国際会議等の北海道開催の推進に係る各省庁連絡会議資料」

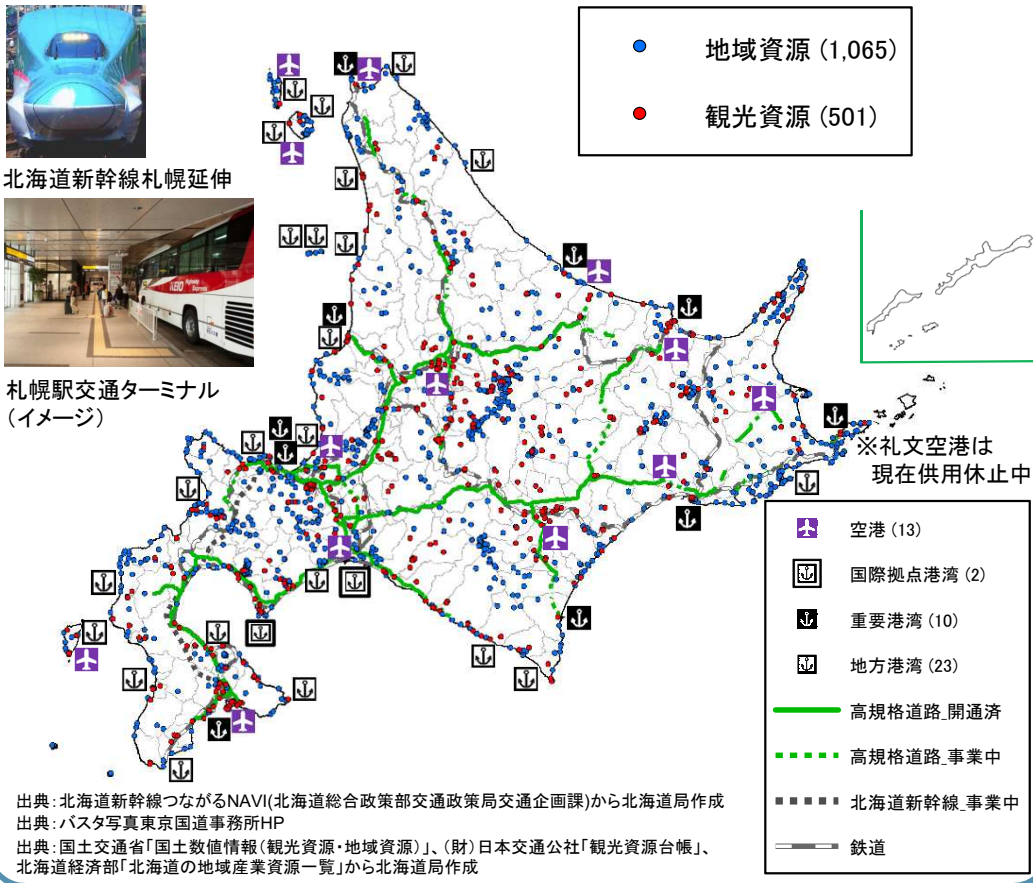
(2) 多様な旅行者の受入環境の整備と地方部への年間を通じた誘客の実現①

- 北海道の地域資源・観光資源は全道各地に広範囲に点在しており、年間を通じて安全・安心で速達性の高い移動環境を確保するとともに、新幹線札幌延伸の効果を生かして地方部への誘客につなげるためにも、2次交通の利便性を確保する必要がある。
- 全ての多様な旅行者が、安全・安心に旅行できるユニバーサルツーリズムの取組やデジタルの実装を推進する必要がある。

現状と課題

○北海道の地域資源・観光資源の分布

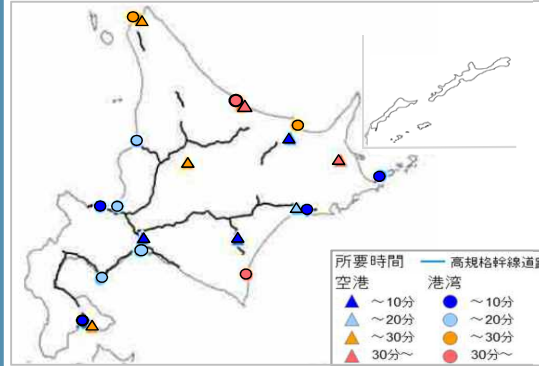
北海道の地域資源・観光資源は全道各地に点在しており、安全・安心で速達性の高い移動環境の確保が必要。
北海道新幹線札幌延伸や札幌駅交通ターミナル、都心アクセス道路の供用を踏まえた地方部への誘客の検討が必要。



○観光地への交通アクセス

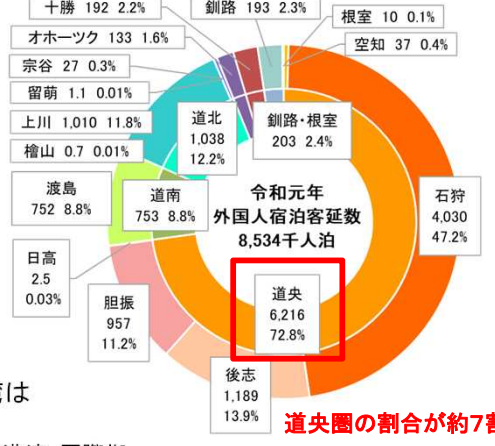
空港や港湾からの2次交通の利便性が低いことから、観光地への移動に時間を要する。そのため宿泊客が道央圏に集中しており、安全・安心で速達性の高い移動環境の整備が必要。

■高規格道路から主要な空港・港湾へのアクセス状況



高規格道路から30分以上かかる主要な空港・港湾は北海道内で4/21箇所(約20%) (全国は6%)。
※主要な空港・港湾: 拠点空港・ジェット化空港、国際戦略港湾・国際拠点港湾・重要港湾
※所要時間は、ETC2.0データの令和元年度の平日の昼間12時間の値より算出
出典:道路局・都市局「令和5年度道路関係予算概算要求概要」(令和4年8月)から北海道局作成

■北海道における外国人の地域別宿泊客延数



出典:北海道「北海道観光入込客数調査報告書」から北海道局作成

■ヨーロッパ諸国の規制速度(高速道路と市街地)

国名	高速道路	規制速度(km/h)
イギリス		112(70mph)
ドイツ		130(推奨速度)
フランス		130
イタリア		130
スイス		120
ポーランド		140
日本		100(一部120)

日本の規制速度は、諸外国と比較して遅い。日本においても、現地の交通状況に応じた交通運用が進む。

出典:ヨーロッパ各国のデータはJAF公表のFIA(国際自動車連盟)調査データから北海道局作成

(2) 多様な旅行者の受入環境の整備と地方部への年間を通じた誘客の実現②

- 外国人が安全・安心に旅行できる環境の創出に向け、地方部の滞在拠点等における受入環境整備や全ての多様な旅行者が安全・安心に旅行できるユニバーサルツーリズムの取組、観光地におけるデジタルの実装等を推進する。
- 交通利便性向上及び観光地へのアクセス向上を図り、地方部への年間を通じた誘客を推進する。

現状と課題

○外国人旅行者への情報提供・受入体制

・北海道内の医療機関における年間受入外国人患者数は、10人未満の医療機関が半数以上ではあるが、旅行業者の約5割が外国人旅行者が病気や怪我になった際の対応について課題と感じたり、旅行中に怪我や病気になったことがあると回答。今後のインバウンド観光需要への対応や外国人が安全・安心に旅行できる環境の創出に向け、多言語による日常的な道路情報や緊急時の災害情報・医療情報等の提供の充実が必要。

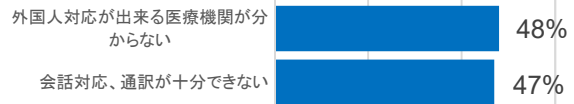
・道の駅の約3割は電子決済の利用ができないなど、海外商習慣への対応が課題。

■北海道内の医療機関年間受入外国人患者数 (平成29年度)



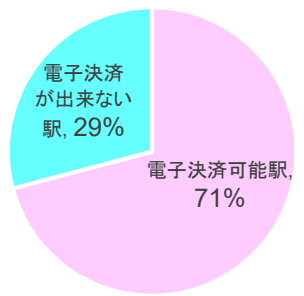
出典：北海道保健福祉部「北海道における外国人患者受け入れに関する対応指針」(平成31年4月)

■「外国人旅行者」が病気や怪我になった際の対応について課題と感じている点 (複数回答)旅行業者(n=125)



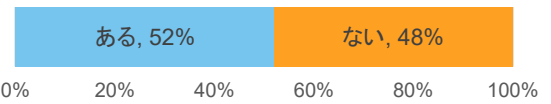
出典：観光庁「外国人観光客の医療等の実態調査」(2019年4月)より北海道局作成

■電子決済可能な「道の駅」 (北海道内127駅) ※クレジットカード



出典：北海道地区「道の駅」連絡会HP「北の道の駅」から北海道局作成

■これまでに「訪日外国人」が旅行中に怪我や病気になったことがあるか 旅行業者(n=88)



出典：観光庁「外国人観光客の医療等の実態調査」(2019年4月)より北海道局作成

施策の検討項目

- 外国人が安全・安心に旅行できる環境の創出
 - 外国人旅行者に優しい受入環境整備
 - 多様な旅行者を受入可能とするユニバーサルツーリズムの推進
 - 外国人旅行者の安全・安心な受入体制の整備
- 観光におけるデジタルの実装
- 地方部への交通アクセスの改善
 - 空港・港湾、新幹線札幌駅等からの2次交通の利便性向上
 - 安全・安心で速達性の高い移動環境の整備

① 外国人が安全・安心に旅行できる環境の創出 ①-1 外国人旅行者に優しい受入環境の整備

・ポストコロナにおけるインバウンド観光需要の回復を見据え、安全で快適な外国人ドライブ観光を支える道路や「道の駅」の整備、観光地案内や多言語による道路情報、災害情報・医療情報の提供等を推進する。

外国人旅行者への情報提供の充実

- MAPアプリを活用した「道の駅」周辺への観光・道路情報の発信、また、JNTO(日本政府観光局)認定外国人観光案内所の設置(令和4年9月現在36/127駅)、「道の駅」におけるWi-Fi環境整備等、外国人旅行者への分かりやすい情報提供等の取組を推進。
- 「道の駅」における情報提供手段とインターネット等情報提供媒体を有機的に結びつけることで、効果的な情報提供等の取組を推進。
- 道路案内標識における英語表記の改善、道路情報板における英語による道路情報提供、また、英語での通行止め情報のリアルタイム発信等の取組を推進。

【「道の駅」での様々な情報提供手段】

- JNTO認定外国人観光案内所
- 電子掲示板での情報提供
- QRコードを利用した情報発信

道の駅「おとふけ」

DXと人の間の情報を有機的に結び取る

【医療、防災、通行止めなどの情報媒体】

- 英語での道路通行止め情報
- ドライブハンドブック
- 「北海道防災ポータル」(多言語)
- 「北海道医療情報システム」(多言語)

■ 道路案内標識の英語表記の改善

■ 道路情報板における英語による道路情報発信

- 「北海道ドライブ観光促進プラットフォーム」において、「Drive Hokkaido!」での情報を発信し、外国人ドライブ観光を促進。

スマートフォン用アプリケーション「Drive Hokkaido!」(株)ナビタイムジャパン運営

出典:北海道庁北海道総務部危機対策局危機対策課、北海道保健福祉部HPから北海道局作成

① 外国人が安全・安心に旅行できる環境の創出

①-2 多様な旅行者を受入可能とするユニバーサルツーリズムの推進

・全ての多様な旅行者が、安全・安心な旅行が可能となるようユニバーサルツーリズムの取組を推進する。「道の駅」では、子育て支援施設としてベビーコーナーや液体ミルクの自動販売機、屋根付き駐車場等の整備を推進する。

①-3 外国人旅行者の安全・安心な受入体制の整備

・アドベンチャートラベルにおける品質の確保に向け、サイクルツーリズムのガイド育成など安全管理の充実にに向けた取組を推進する。

「道の駅」におけるユニバーサルツーリズムの推進

・「道の駅」において、妊婦やベビーカー利用者、車椅子利用者等が雨や雪の影響を受けず乗降可能な屋根付き駐車場の整備や、ベビーコーナーなど子育て世代が安心して利用できる施設の整備を推進。



「道の駅」での液体ミルクとおむつの自動販売機「北オホーツクはまとんべつ」



「道の駅」での妊婦やベビーカー利用者、車椅子利用者に便利な屋根付き駐車場の整備



「道の駅」での24時間利用可能なベビーコーナー「サンフラワー北竜」

地域との連携によるサイクルツーリズムガイドの育成

・アドベンチャートラベルの一つであるサイクルツーリズムの品質の確保に向け、シーニックバイウェイ北海道の活動団体と連携し、ガイドの育成などの取組を推進。

・地域内のサポートガイドとなり得る潜在的な人材の発掘・育成、サポート体制の構築を目指し、従来からのサポートライダーとともにコース実走による路面や交通状況、ビューポイントや休憩箇所等を確認する取組を実施。

■サポートライダー育成の取組
(天塩川シーニックバイウェイ×宗谷シーニックバイウェイの推進事業)



試走前のミーティング



休憩ポイント毎で気づいた点を確認し合う様子



パンク修理を試みる



新たなコースの検証

② 観光におけるデジタルの実装

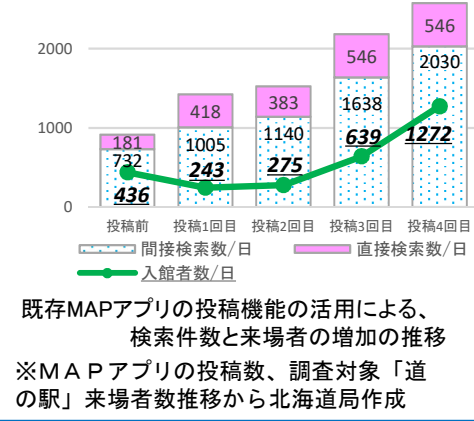
- 「道の駅」における非接触を実現した感染症対策となる電子決済や、道路協力団体制度を活用した車中泊予約システムの導入、既存MAPアプリの投稿機能を活用した「道の駅」の情報発信など、「道の駅」におけるDXの取組を推進する。
- 外国人ドライブ動態データの分析・活用による混雑回避・人流分散に向けた情報発信などDXを活用したオーバーツーリズム対策や、観光案内ガイドの省力化に向けたガイドシステムの導入など、案内等受入体制の効率化に向けたDX実装の取組を推進する。

「道の駅」におけるDXの取組

- 「道の駅」の車中泊問題を解決する、道路協力団体制度と連携した予約システムの導入等を推進。



- 既存MAPアプリの投稿機能を活用し「道の駅」の情報発信をする取組を推進。



- 「道の駅」において、ニューノーマルを見据えたEC※の充実やスタンプラリーの電子化の取組を推進
- ※EC: Electric Commerceの略。電子商取引。

■全国「道の駅」の商品EC

出典:全国「道の駅」連絡会

■北海道の「道の駅」スタンプラリーの電子化

出典:北海道地区「道の駅」連絡会

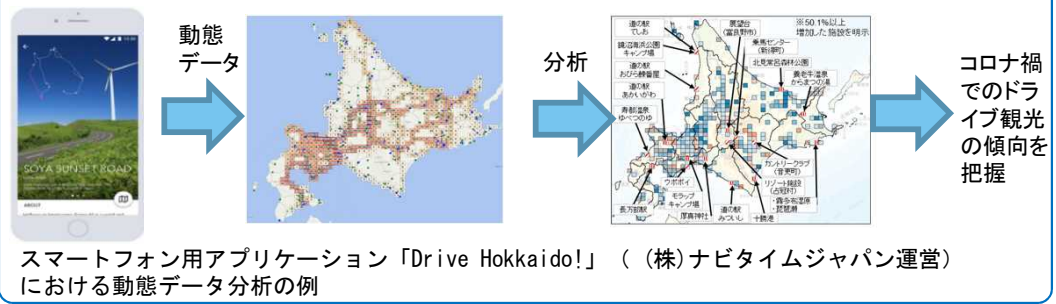
■「道の駅」における非接触での決済環境の整備

取組目標: 導入率80%以上(2025年)

出典:全国「道の駅」連絡会HP,新「道の駅」のあり方検討会 提言(令和元年11月18日)より北海道局作成

ドライブ観光動態データの分析・活用

- 「北海道ドライブ観光促進プラットフォーム」において、外国人ドライブ観光支援アプリ「Drive Hokkaido!」を活用し、外国人観光客の動態データを継続的に把握、分析、地方公共団体や観光関係団体等との共有を行うなど、外国人ドライブ観光を推進。



観光客受入体制のDX化の取組の支援

- 生産空間の様々な観光コンテンツの受入体制として、言語問題や案内ガイドの省力化などDXで取組を推進。

■地域の観光客受入れをDXで支援するイメージ

【学ぶインフラツーリズム】

- ダムでのワイン熟成など
- 春先に迫力のあるダム放流
- 【地域協働 学びと交流】
- 子牛のミルクやり畜産体験
- 【農泊(渚泊)体験】
- 地元農産物を使ったピザ

生産空間観光

多言語に対応したツアートレーサー

地域のおもてなし

北の暮らしと体験

Tourist information in English

③ 地方部への交通アクセスの改善 ③-1 空港・港湾、新幹線札幌駅等からの2次交通の利便性向上

- ・新千歳空港を始めとする道内空港の受入機能強化や港湾等のクルーズ船の受入環境整備を推進する。
- ・地方部の観光地へのアクセス改善、定時性・速達性の向上を図る高規格道路などの交通ネットワークの整備や、札幌駅交通ターミナル、追加IC整備等の交通利便性向上の取組を推進する。
- ・上記の取組を通じ、空港・港湾、新幹線札幌駅等をゲートウェイとした道内各地の観光地への観光流動の拡大を図るとともに、道内一括運営委託7空港における取組と連携を図り、周遊観光の活性化を促進する。

空港の受入機能強化

- ・新千歳空港において、航空機や除雪車両の混雑を緩和し、駐機場への引き返しを少なくするため、誘導路複線化や滑走路端近傍のデアイシングエプロン整備等を行い、航空機の遅延や欠航の回避・軽減を図る。
- ・新千歳空港等道内一括運営委託7空港を含む道内13空港をゲートウェイとした観光流動を道内各地へ拡大する交通ネットワークの整備・アクセスの改善及び2次交通の確保等交通利便性の向上を推進。

※一括運営委託北海道内7空港：国管理空港(新千歳、稚内、釧路、函館)、特定地方管理空港(旭川、帯広)、地方管理空港(女満別)※13空港は道内14空港のうち千歳飛行場を除いた数

クルーズ船受入環境の改善

- ・道内各地へ国内外からの観光客が容易にアクセス可能となるよう、北海道内の港湾においてクルーズ船受入環境の改善を推進。

■クルーズ船受入環境の改善事例 ■みなとオアシスでの取組事例



小樽港第3号ふ頭(改良)



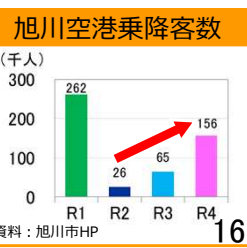
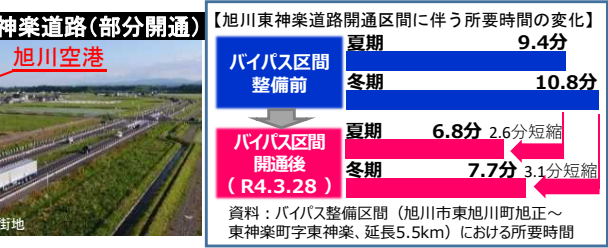
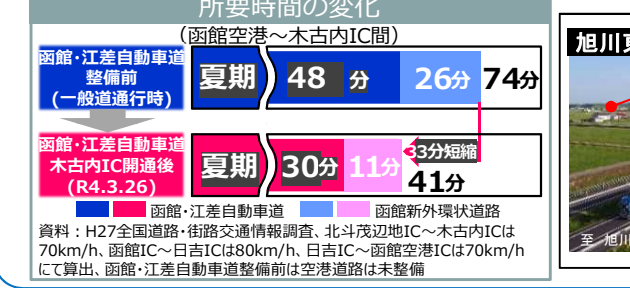
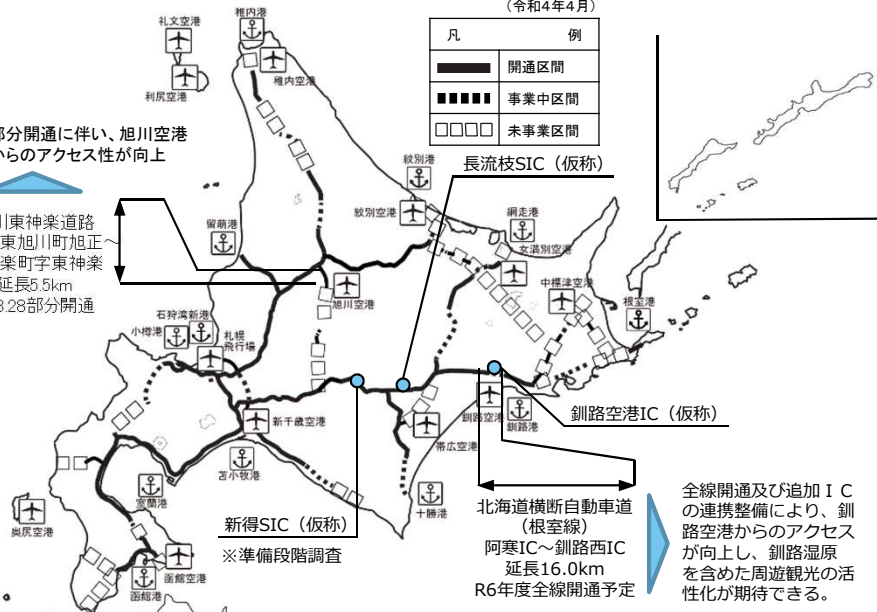
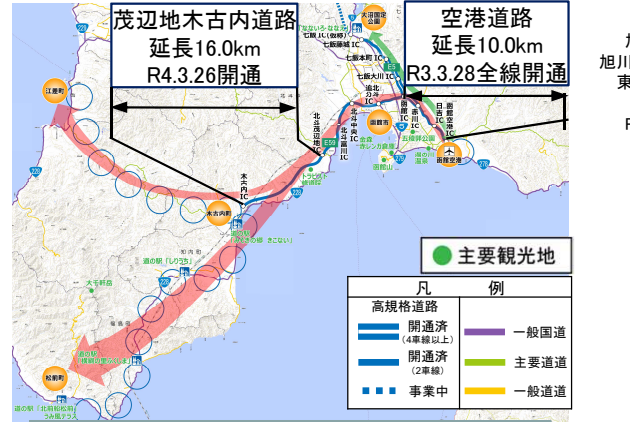
クルーズ船お見送り

高規格道路ネットワークの整備による交通アクセス改善

- ・空港・港湾、新幹線札幌駅等からの地方部の観光地への定時性・速達性を向上させる高規格道路等の整備を推進するとともに、札幌駅交通ターミナルを始めとする交通結節点の整備や地域活性化ICを始めとする追加ICの整備を推進することで、空港や観光地のアクセス性をより向上させ、周遊観光の活性化を促進。

■空港と観光地のアクセス向上の効果事例

函館空港と函館市内観光地へのアクセス時間短縮 → 松前さくらまつり、道の駅「なないろ・ななえ」「江差」の入込客数増加



③ 地方部への交通アクセスの改善 ③-2 安全・安心で速達性の高い移動環境の整備

- ・積雪寒冷地の運転支援技術による移動の負担軽減や速達性の更なる向上による移動時間の短縮など、安全・安心な移動環境を整備し地方部への年間を通じた誘客を推進する。
- ・観光地型MaaSの促進や無人自動運転オンデマンド交通、観光(移動、運搬)支援ロボット、新たなモビリティ等により、交通需要の少ない地域においても交通手段を確保し、地方部における観光客等の交通利便性の向上を推進する。

積雪寒冷地における運転支援技術の活用

- ・ 冬期のインバウンドのレンタカー利用、高規格道路の冬期の安全・安心な運転を支援する積雪寒冷地の運転支援技術の導入を推進。

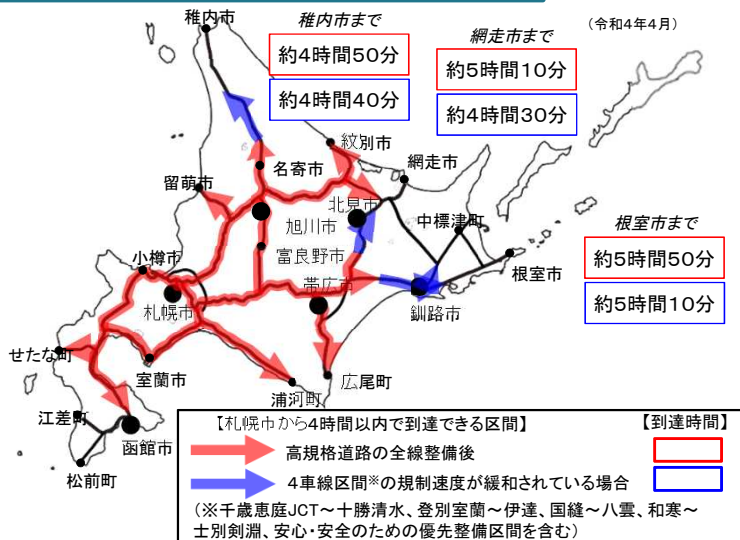
■路面積雪時の勾配区間や路肩積雪区間の自動走行実験
(「道の駅」コスモール大樹)



出典:北海道開発局「新広域道路交通ビジョン(北海道ブロック版)」(令和3年4月)

速達性の更なる向上による移動時間の短縮

- ・ 移動距離の長い北海道の地方部の観光地への速達性向上のため、現地の状況に応じ、車線の弾力的運用や規制速度の見直し等を推進。

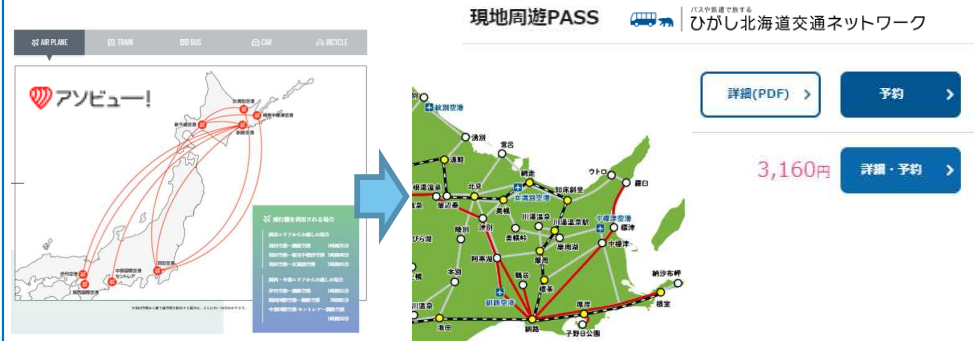


▲東北自動車道(花巻南IC～盛岡南IC) 出典: GoogleMap

▲速達性の更なる向上による札幌市からの移動時間の変化

観光地型MaaS導入の事例

- ・ 観光地型MaaSの導入により地方部における観光客等の交通利便性の向上を促進。



出典:根室地域の観光・二次交通情報(「北海道北方領土隣接地域(根室地域)観光促進協議会」)

出典:「バスや鉄道で旅するひがし北海道交通ネットワーク」

交通需要の少ない地域の交通手段確保の事例

- ・ 地方部に自動車運転免許を持たない外国人旅行者等を誘致するため、「ラストワンマイル」の移動手段の確保を推進。



▲観光(移動、運搬)支援ロボットや新たなモビリティ 出典: 規制の特例を受けたLUUP 北海道局撮影

(3) 持続可能な観光地域づくりによる自然環境・文化の保全と観光の両立①

- 北海道を訪れる観光客の多くが航空機を使用し、北海道内ではドライブ観光を楽しむ観光客が多いため、これらで排出されるCO2について対策を講じる必要がある。また、オーバーツーリズム対策を始めとした北海道の自然環境や景観・文化の保全と観光の両立など世界的な潮流である持続可能な観光地域づくりを推進する必要がある。
- 北海道には、北の縄文遺跡を始めとした様々な文化資源に加え、雪氷文化、北の暮らしなど道外の人が羨むようなライフスタイルがあり、それを保全・継承し、世界に誇る文化資源・観光資源としての活用を促進する必要がある。
- 北海道の特に地方部においては、観光受入地域を支える人材の不足が課題である。

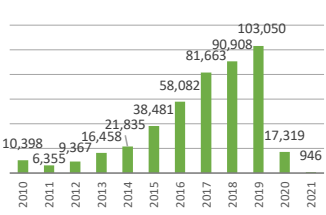
現状と課題

○ドライブ観光によるカーボンニュートラルの課題

北海道を訪れる観光客の多くが航空機を使用し、また、北海道内においては公共交通で訪問ができない地方部の観光地へのドライブ観光ニーズが高いため、カーボンニュートラルの実現に向け、これらで排出されるCO2について対策を講じる必要があるとともに、観光地における渋滞対策などオーバーツーリズム対策についても必要。

外国人旅行者のZ世代はサステナブルな旅行を重視する傾向が高く、ポストコロナにおけるインバウンド観光需要への対応に向け、自然環境と両立したサステナブルな旅行の確立が必要。

■外国人へのレンタカー貸渡台数(北海道)



※北海道レンタカー協会連合会調べから北海道局作成

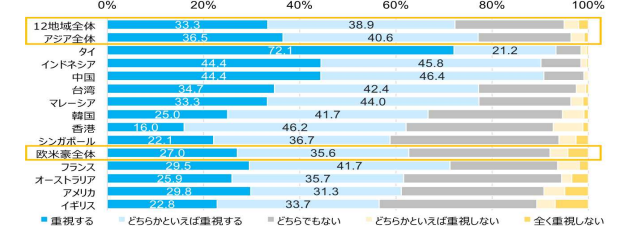


■観光地周辺の駐車環境が脆弱なため観光地周辺渋滞が発生



▲写真: 知床の路肩駐車状況
出典: 北海道開発局技術研究発表会平成24年度「知床地域における新しいまちのマネジメント」について総走開発建設部

■外国人旅行者のZ世代は約8割がサステナブルな取組を重視する傾向

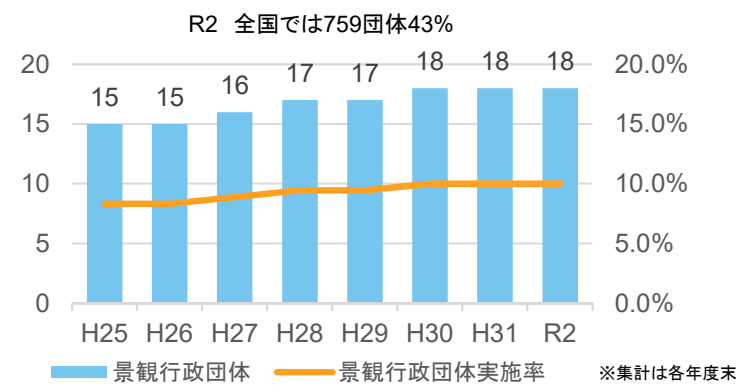


出典: 「DBJ・JTBF・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査(第3回新型コロナウイルス影響度特別調査)」のアンケート結果をもとにDBJ作成

○自然環境・景観・文化の保全

北海道における景観行政団体の割合は全国平均より低くなっており、北海道の自然環境や景観・文化の保全と観光の両立に向けた取組が必要。

■景観行政団体数(北海道)

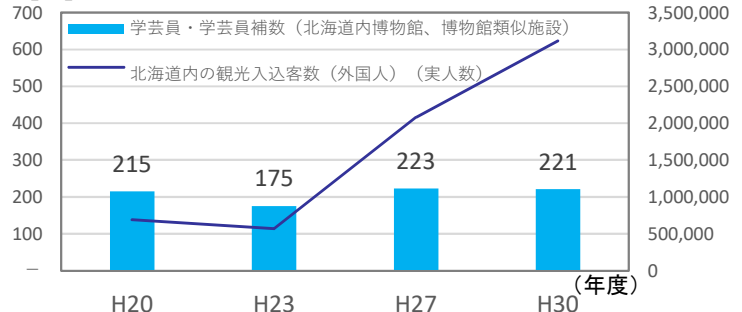


※集計は各年度末

○観光地を支える人材の確保

観光受入地域を支える人材の不足や文化を保全・継承を支える人材の不足が大きな課題。市町村単位での受入人材の確保ではなく、エリア全体での人材を確保や地域活動と連携した受入体制の確保が必要。

【人】 ■学芸員数と外国人観光入込客数の推移



出典: 文部科学省「社会教育調査」、北海道「北海道観光入込客数調査報告書」から北海道局作成

※GSTC: Global Sustainable Tourism Council(グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会)の略。持続可能な観光の推進と持続可能な観光の国際基準を作ることを目的に、2007年に発足した国際非営利団体。

① 観光地におけるゼロカーボンとサステナブルツーリズムの推進

①-1 北海道観光の脱炭素化によるサステナブルツーリズムの推進

- ・ドライブ観光を支援する「道の駅」での急速EV充電機の整備など、カーボンニュートラルな取組を推進する「ゼロカーボン北海道」とドライブ観光との両立を図る「ゼロカーボンドライブ北海道」の取組を推進する。
- ・サステナブルな旅を重視するZ世代等に対応し、インバウンドのリピーター客の増加を促進するため、航空機で排出したCO2に対して、旅行中にカーボンオフセットする取組を推進する。
- ・北海道観光のサステナブルなブランドイメージの確立に向け、世界水準であるGSTC※の認証数増加に向けた取組を促進する。

①-2 オーバーツーリズム対策の推進

- ・観光客の著しい増加に伴う渋滞や自然環境への負荷、地域住民の生活への負担等オーバーツーリズム対策として、観光地の交通マネジメントを推進するとともに、DMOによる適正な誘客数調整や旅行消費額単価の維持などの取組を促進する。

ゼロカーボンドライブ北海道の推進

- ・「道の駅」を活用した次世代自動車普及促進など、CO2排出削減を図る取組を推進するとともに、森林の植樹・維持管理を通じてCO2をオフセットする「シーニックの森」等の取組も推進し、ゼロカーボン北海道とドライブ観光の両立を図るゼロカーボンドライブ北海道の取組を推進。

■ 「道の駅」に急速EV充電施設の設置
「道の駅」を活用した次世代自動車普及促進の取組として、市町村や「道の駅」管理者と連携し、「道の駅」に急速EV充電施設の設置を促進。



道の駅「おとふけ」での充電施設設置状況

■ CO2をオフセットする森林の植樹・維持管理
ドライブ観光で排出されるCO2をオフセットする森林の植樹・維持管理を行う「シーニックの森」の活動や防雪林整備等を地域と協働して推進。



シーニックの森による森林植樹・維持管理

観光地の交通マネジメントの推進

- ・自動車からのCO2排出削減のため、観光交通が集中する時期・エリアにおけるハード・ソフト両面からオーバーツーリズム対策の一つでもある観光地の渋滞対策を推進。

■ 観光地(富良野)における渋滞対策マネジメント



渋滞の手前で無料臨時駐車場に誘導し、無料シャトルバスにより送迎。

■ 知床でのマイカー交通規制とネイチャーガイドバスの取組



ネイチャーガイドが同乗し、バスの中から野生動物観察が楽しめる。規制するだけではなく、ガイドツアーにより雇用の安定にも繋がっている

出典: 知床自然センターHPから北海道局作成

① 観光地におけるゼロカーボンとサステナブルツーリズムの推進

①-3 自然環境と両立したサステナブルツーリズムの推進

・エシカル(倫理的)消費を嗜好する外国人旅行者の獲得に向け、自然環境と両立したエコツーリズムの推進など、持続可能な観光地域づくりと豊かな自然環境の保全に貢献する取組を推進する。

・ESG投資※を踏まえた観光・交通関連企業による設備投資の促進など、多様な財源の導入に関する議論を促進する。

※従来の財務情報だけでなく、環境(Environment)・社会(Social)・ガバナンス(Governance)要素も考慮した投資

豊かな自然環境の保全を通じた観光地域づくり

■ 釧路湿原の取組



遊歩道の整備



カヌーを楽しむ様子



・ 釧路湿原では、自然再生事業を実施し、豊かな自然環境の保全に貢献。

■ 舞鶴遊水地の取組



舞鶴遊水地



タンチョウの親子
(令和3年5月撮影)



呼び戻す会による見回り活動

・ 舞鶴遊水地では、令和2年に圏内100年ぶりのタンチョウ繁殖が確認(その後2年連続で確認)。タンチョウが営巣できる良好な環境維持に配慮しつつ、地域振興やサステナブルツーリズムに貢献。

・ ヒナ誕生以降、来訪者は増加しており、地元のタンチョウを呼び戻す会等による観察マナー啓発・来訪者に対する説明を実施。

・ タンチョウをモチーフとした15種類以上(令和2年12月時点)の商品が町内商店等で販売され、地域活性化、サステナブルツーリズムに貢献。

・ 外国人旅行者にも人気のバードウォッチングの観光コンテンツとして、観光地域づくりを推進。

自然環境と両立したエコツーリズムの推進

・ 天塩川シーニックと宗谷シーニックとの広域連携事業として、「スイスモビリティ」を参考とした道北全体での取組(受入環境・ツアー造成等)を推進。



きた北海道エコ・モビリティの取組

・ 水の中を歩きながら、川の植生を学び、遊ぶツアーを促進。(しもかわ観光協会)



リバーウォーク

・ 地元木材などを活用して生活に必要なもの・遊ぶものを自分で作って、使う・遊ぶをテーマにした「クラフト&プレイ」などを文化として根付かせていく取組を促進。(道北文化創造プロジェクトBASIS(美深町観光協会+幌加内町観光協会等))



終り火・なごり雪

・ 自然を学び体験出来るフットパスのツアーの促進。(エコ・ネットワーク、中川町観光協会、北海道大学)



フットパス 21

② 地域資源を活かした持続可能な観光地域づくりの推進 ②-1 自然環境・文化を活かした持続可能な観光地域づくりの推進

- ・身近な河川空間の使い方について知恵を集めた「かわたびほっかいどう」などの河川空間を活かした取組を通じ、自然環境と観光を両立した持続可能な観光地域づくりを推進する。
- ・港湾空間においても、「みなとオアシス」を活用して北海道の海の資源を活かした持続可能な観光地域づくりを促進する。

河川空間を活かした持続可能な観光地域づくり(かわたびほっかいどう)

- ・砂防堰堤近傍に形成された池が観光資源化され、近年、世界的に有名となった白金地区に隣接する「青い池」への来訪者に対して、サイクルツーリズムの普及・振興と共に、自転車を利用して近隣の観光資源にアクセス親水空間を推進。



青い池



十勝岳連峰

美瑛川の河川空間を
サイクリングなどで活用

十勝岳を眺めながら、
川沿いを走りたい!



※堤防の舗装は別事業で実施

- ・水辺での様々なイベントを通して、ライフスタイルの提案、河川空間を活用した観光地域づくりを推進。



川見(豊平川幌平橋)



ミズベのロングマーケット(江別)



千歳リバーシティプロジェクト



キッチンカー
水辺でのイベント(江別)

海の資源を活かした持続可能な観光地域づくり(みなとオアシス)

- ・北海道の江差港では、「みなとオアシス江差」の構成施設であるかもめ島において、日本財団「海と日本PROJECT」と連携してマリumping(グランピング+海洋体験)を実施し、地域の食材提供によるバーベキューやSUP(スタンドアップパドルボード)指導者の育成等、海の資源を活かした持続可能な観光地域づくりを促進。



日本海を一望するドーム型テント「マリumpingテント」での宿泊



日中に吹く海風にのせて凧あげを楽しむ「マリunkait」



サザエさん×海と日本プロジェクト発表セレモニーにて紹介されたサザエさんのオープニングアニメに登場するかもめ島マリumping

(3) 持続可能な観光地域づくりによる自然環境・文化の保全と観光の両立⑥

② 地域資源を活かした持続可能な観光地域づくりの推進 ②-2 景観の保全と両立した観光地域づくりの推進

- ・北海道観光において重要な資源である自然景観や農村景観を世界に通用するレベルにすることを旨とし、景観行政・土地・施設所有者、シーニックバイウェイ北海道等の活動団体関係者が一体となって、魅力ある道路景観等を地域の重要な観光資源の一つとして確立するなど、世界水準の景観形成に向けた取組を推進する。
- ・観光地における良好な景観形成に向けたまちづくりを目指し、無電柱化による景観対策を推進する。
- ・景観行政団体数等を増加させるとともに、景観を阻害する廃屋対策等についても地域と連携した取組を促進する。

道路景観を活かした地域協働による観光地域づくり(シーニックバイウェイ北海道)

- ・沿道の景観清掃活動の中で、目に付いた道路の景観を阻害する胡桃の木等を撤去する活動を兼ね、リユース材の販売や遊歩道に杖や案内サイン等を設置などの取組を推進。

■ 良好な景観の維持・形成

道路管理者による取組例～道路附属物の集約等



案内標識の集約前 集約後

眺望を楽しめる沿道休憩施設の整備・リニューアル



眺望を阻害する構 景観診断 (寒地土木研究所と連携) 整備・リニューアル後

■ 活動団体主体の美化活動

国道のビューポイントパーキングをリレー方式で巡り、地域に訪れる方が気持ちよく過ごせるようおもてなしの心を込めて美化活動を実施。



草刈り・ゴミ拾い状況



杖の提供 編みかごの販売

リユース作品の販売

観光地の無電柱化による景観対策

- ・無電柱化することで、観光地における良好な景観の形成に向けたまちづくり、災害時における緊急輸送道路の確保及び安全で快適な歩行空間の確保を図ることを目的に事業を推進。また、埋設深さの浅層化やトレンチャー施工など新技術を活用して早期に事業を推進。

歴史国道・日本の道百選「赤松街道」赤松並木の成長を阻害する電線類



トレンチャーを活用した電線類地中化施工



観光地等における空き家、古民家等景観対策

- ・歴史ある美しい街なみや地域の特色に応じた景観の保全を図る環境整備により、地方自治法に基づく景観条例やまちづくり要綱等に従って行われる住環境整備を実施することで、地域の特色に応じた景観の保全及び形成を図り、持続可能な観光地域まちづくりを促進。
- ・地区住民が、街づくり協定にて地区住民によるまちづくり体制の組織化、維持運営、地区施設の日常の維持管理などの事項を定め、建築行政の承認を受けるなど、官民連携で持続可能な観光地域づくりを促進。

■住宅等の修景(外観の修景を行い、地域固有の景観形成) 【街なみ景観整備の助成(民間整備)】



(整備前)

(整備後)

③ 北海道が世界に誇る北の縄文遺跡等の保全・継承 ③-1 道内各地の遺跡等地域資源を活用した観光地域づくりの推進

- ・北海道が世界に誇る北の縄文遺跡等に対する理解醸成、保全継承を促進するため、地域の方々と連携し、今後の観光資源として道内各地の遺跡について活用可能性を探る取組を推進する。
- ・北の縄文遺跡等地域資源を活用した受入環境整備として景観配慮型事業やアクセス改善、案内標識設置等を推進する。

縄文遺跡等地域資源を活用した観光地域づくりの推進

- ・宗谷シーニックバイウェイルート運営代表者会議、北海道大学アイヌ・先住民研究センター、礼文町等が、礼文島内にある「浜中2遺跡」が今後の観光資源としての活用可能性を探るため、現地での視察や発掘者からの説明、関係者による意見交換会を開催。
- ・宗谷管内市町村教育委員会に所属する学芸職員が情報交換及び研究活動などを通じて専門的スキルを高めるとともに、宗谷管内及び各市町村の自然や文化等の保護・保存・発展に寄与することを目的とする『宗谷管内学芸職員連絡協議会研修会』を開催(協力:稚内開発建設部)。
- ・伊達洞爺湖ミュージアム地域振興プラットフォーム(事務局:室蘭開発建設部ほか)による「縄文遺跡を活用した地域づくり勉強会」を開催。



文化資源等としての活用に向けた受入環境整備の推進

- ・北の縄文遺跡等地域資源を活用した受入環境整備として、垣ノ島遺跡に隣接する臼尻漁港の臨港道路整備における景観について検討し、景観配慮型の臨港道路整備を推進。
- ・大船遺跡へのアクセスが向上する尾札部道路の早期整備や案内標識の設置等により受入環境の整備を推進。

■臨港道路の景観検討(垣ノ島遺跡)

- ・道の駅「縄文ロマン 南かやべ」
- ・函館市縄文文化交流センター

■案内標識の設置

広域的な観光周遊の支援のため、「北海道・北東北の縄文遺跡群」のピクトグラムを活用して周遊ルートに案内標識を整備。

■尾札部道路の整備(大船遺跡)

一般国道278号 尾札部道路 延長14.8km

令和4年度 部分開通予定 延長0.5km

(3) 持続可能な観光地域づくりによる自然環境・文化の保全と観光の両立⑧

③ 北海道が世界に誇る北の縄文遺跡等の保全・継承 ③-2 北海道の雪氷文化等を活用した観光地域づくりの推進

- 北海道には、雪氷文化、北の暮らしなど、道外の人が羨むようなライフスタイルがあり、それを保全・継承し、世界に誇る文化資源・観光資源としての活用に向けた取組を促進する。
- 北海道は冬の観光のポテンシャルが高く、冬や雪をテーマにしたスノーリゾート、アドベンチャートラベル、つるつる路面对策、除雪など、北海道民にとっての日常の中にある利雪・克雪の文化の継承と観光コンテンツとしての活用に向けた取組を推進する。

道路空間を活用した雪氷文化、北の暮らし、利雪・克雪の継承の取組

- 札幌の雪みちの歩き方や服装など、冬の札幌を楽しく観光するために役立つ情報を紹介するとともに、冬の札幌のまちを楽しむこと、安全で快適な冬の歩行・健康づくりとなる雪みちのウォーキングマップの作成や雪かき・除雪のコツ、つるつる路面の情報を発信。
- 札幌市民や北海道を訪れる観光客のみならず、全国の小雪地域での防災情報としても活用。(ウインターライフ推進協議会)

- 道路管理者及び沿道の民間企業等とも連携し、観光客の方々に旅の疲れを癒し、喜んでもらいたいというおもてなしの取組アイスキャンドル「シーニックdeナイト」を推進。(シーニックバイウェイ北海道)



冬期沿道活動「シーニックdeナイト」～ワックスキャンドルで灯りと心をつなぐ～

- 歩行者天国の実施に併せて、親子が一緒になって、車道の雪の上に砂等を使った「ロードアート」を作成。子供たちが冬の暮らしを楽しむ文化として継承。(札幌大通まちづくり(株))

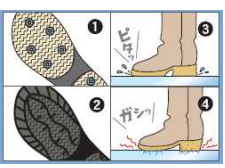


Welcome Santa (2013年12月23日)



Penguin Wonderland (2014年1月12日)

■ 冬用の靴の他杖や車いす用雪みちアタッチメントの紹介



■ 滑り止めの砂の使い方などの紹介



④ 地方部の観光を支える担い手との連携

- ・観光振興に携わる多様な人材や関係機関の連携・協働の下で進められている「シーニックバイウェイ北海道」、「かわたびほっかいどう」、「わが村は美しくー北海道」運動などの活動を通じ、地方部の観光を支える地域コミュニティの構築や担い手との連携に向けた取組を推進する。
- ・学芸員の連携・協働など市町村単位での受入人材の確保ではなく、エリア全体での人材確保の取組を推進する。また、幼少期からの郷土愛の醸成や地域の多様性や地域の学びの場の必要性を再認識する取組を促進する。

地域協働を通じた地域コミュニティの構築 (シーニックバイウェイ北海道)

- ・生産空間に「暮らしたい」、「訪れたい」と感じられる魅力の向上のため、シーニックバイウェイの活動団体等、地域主体の取組の支援を推進。
- ・道路管理者及び沿道の民間企業等とも連携し、綺麗な道の維持管理活動等を通じて、ボランティアの相互協力関係の構築を目的。道ゆくドライバーや函館を訪れた国内外の観光客の方々に「綺麗なお花」を見て、旅の疲れを癒し、喜んでもらいたいというおもてなしの取組を推進。

■夏期沿道活動「花いっぱい活動」植栽及び維持管理活動



■地域をつなぐルートコーディネーターの取組

各ルートの地域の方々と連携するルートコーディネーターが、広報及びプロモーション活動、ルートと連携した観光プロジェクトづくり、全国的なネットワークづくり、視察対応等の支援を行っている。



各ルートの取組を紹介する情報誌 Scenic Byway



私たちが紹介します
支笏洞爺ニセコルートの
ルートコーディネーター

「かわたびほっかいどう」の活動を通じた地方部の観光を支える担い手の連携

- ・美瑛町では、平成21年度から「美瑛センチュリーライド」を実施。サイクルツーリズムの普及・振興、自転車を利用して近隣の観光資源にアクセスさせ観光客の増加の取組を地域で推進。



地元カフェでWGを開催
(整備内容等を議論)



WGで現地を試走

かわたび大賞

大賞

金山風景印

金山ダム周辺の3郵便局と共同でスタンプラリー



優秀賞

うまたび×かわたび



馬と自転車、カヌー、様々な移動手段を使って釧路川を巡る

優秀賞

丘のまびえいサイクルスタンプラリー

QRコードを活用したサイクルスタンプラリー



学芸員との連携・協働

- ・学芸員による広域巡回指導などの支援や体験型観光を進めるための地域連携等を推進。

管内自治体の首長、教育委員会、学芸員が一同に会し、「次世代に誇れる地域づくり」をテーマに意見交換会や「オホーツクミュージアムえさし見学会」を稚内開発建設部が開催。



「わが村は美しくー北海道」運動の推進

- ・農山漁村地域の活性化に貢献する活動を支援するため「わが村は美しくー北海道」運動コンクールを推進。

JR北海道の車内誌において運動の受賞団体の毎月掲載や旅行者が道内各地のむらづくりを理解し、現地へ訪れることができるよう、行き先案内も掲載。

